

『豊臣秀吉と草薙神社』

県立大学に東隣する『草薙神社』は、古く第十二代影行天皇時の創建と伝えられているが、豊臣秀吉と関係があることは、あまり知られていない。

秀吉の一代記『豊鑑(とよかがみ)』に、次のような記述がある。

『天正十八年三月、秀吉都をたて、東に趣きたまふ...、駿河の府に着きて草なぎの宮八いずこの程にやと問たまふ、是より五十町斗(ばかり)東にやといふ.....』

『古を神もや思ひわずれす八、我ゆく末の恵あるらし』

この秀吉の詠んだ歌は不思議に知られていない。しかし、世に武勇の神社として名高かったことが、これで分かる。

天正十八年(1590年)は、小田原攻めのときであり、その途中に駿府に寄ったわけで、駿府城主は徳川家康である。このとき『草薙神社はどこにあるか』と聞いたのである。

またこの和歌もいい。昔のことと神を忘れなければ、俺の将来に神の恵みがある...という意味で、このあと秀吉は天下統一を成し遂げる。ご利益があったのだ。

草薙神社を詠んだ和歌はほかにも多いのだが、そ

谷田風土記

のほとんどがまだ知られていないままである。古来厚い信仰を集めていたようで、『類聚国史』清和天皇貞観元年(859年)の条に、次の一文がある。

『二十六日、駿河国鳥渡郡草薙神社に従二位を授く』

貞観元年は清和天皇がご即位になられた翌年で、藤原氏が摂関政治を始めたころである。

その他細川玄旨の『東国陣記』にも、次のような歌がある。

『尊こそ草薙はらう世の神と、聞く八誠にたのむ身の上』

武勇に神と尊崇されていたのだ。現在でも試合や試験のときにご利益がありそうである。



草薙神社案内板

72

モスクワ国立国際関係大学のレーズニコワ先生来学

県立大学と学術交流協定を結んでいるモスクワ国立国際関係大学(MGIMO)からタチャーナ・レーズニコワ先生が、1月14日に来日した。埼玉県に2ヶ月滞在したことがあり今回が2回目の来日となる。

レーズニコワ先生は、MGIMOで日本語の上級講師を勤めている。本学における研究テーマは「現代日本語の特色と日本文化の関係」で、2月下旬までの1ヶ月半の間、本学に滞在し研究を行う。

受入教員は島田孝夫国際関係学部助教授が勤め、研究テーマの専門分野に係る国際関係学部のロシア語、日本語の教員が研究に協力する。

レーズニコワ先生は、1月16日に廣部学長と面談し、「日本の文化に興味があり、今回は特に『非言語コミュニケーション』について研究したい」、「海や山、

植物などの自然が大好きで、静岡では海岸を散歩してみたい。」などと県大での研究活動や静岡での生活を楽しまいと述べられた。

今回の滞在中は、図書館での資料収集、文献の調査、教員とのディスカッション等により研究活動を進めている。



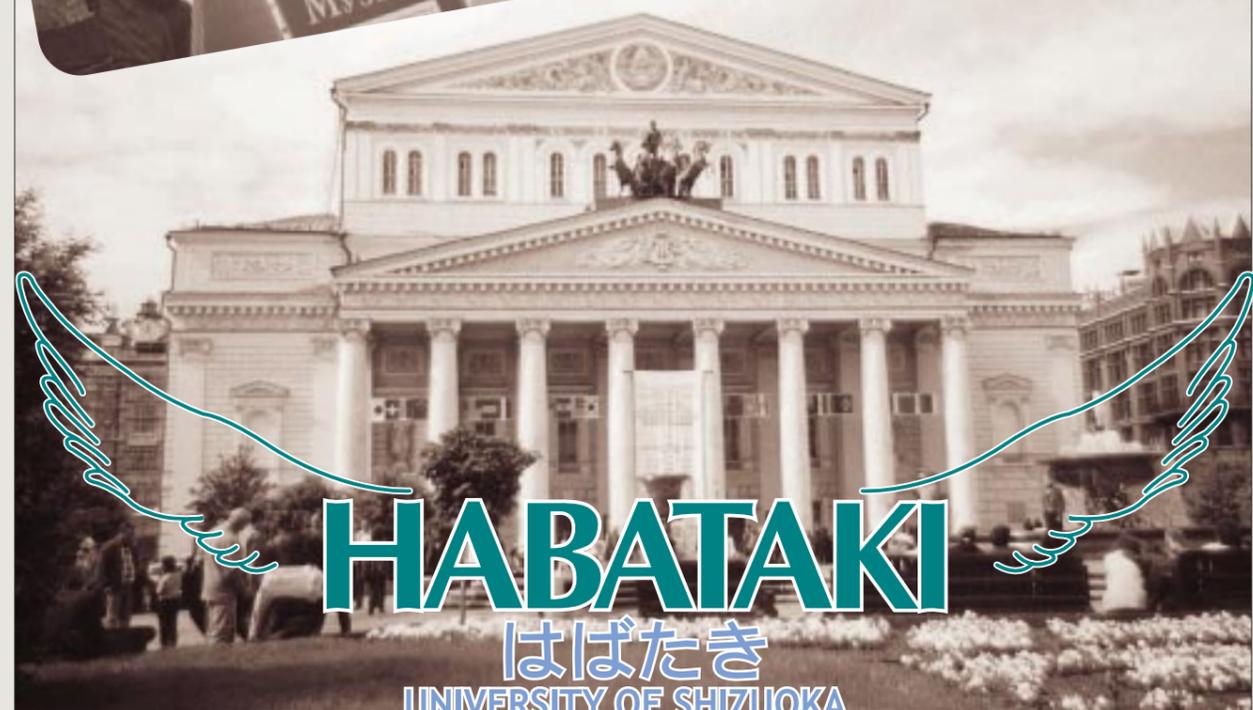
学内ニュース「はばたき」への掲載について

掲載希望がありましたら、事務局経営課・企画スタッフ(管理棟2階)あてに原稿をお寄せください。

E mail: kijo4@gm.u-shizuoka-ken.ac.jp

企画・編集 静岡県立大学広報委員会 TEL 054-264-5103

静岡県立大学ホームページアドレス: <http://www.u-shizuoka-ken.ac.jp>



HABATAKI

はばたき

UNIVERSITY OF SHIZUOKA

52-1 Yada, Shizuoka-shi shizuokaken422-8526 Japan

inside NEWS



留学体験記 モスクワ国立国際関係大学

本学と学術交流協定を結んでいるモスクワ国立国際関係大学への3ヶ月間の短期交換留学生として派遣された、国際関係学部4年生の近藤真奈美さんと山田有紀子さんから留学体験記が寄せられたのでここに掲載します。

「信じられないロシアの話」

国際関係学部4年 近藤真奈美

私はモスクワ留学中、「信じられないロシアの話」という題でその名の通り、日本では味わえないであろう、驚いたこと、感動したこと、腹が立ったことなどを書き留めていた。かなり個人的な解釈のもので恥ずかしい気持ちもあるが、ロシアを少しでも身近に感じてもらいたく、いくつかその中のエピソードを皆さんに紹介したいと思う。

私は、ほぼ毎日、昼食を学生食堂で取っていたのだが、やはり昼時は我が校と同じように長い列がつく。お盆を持って私も友人と並んで待つのだが、ロシア人たちは知り合いがいると必ずといっていいほど、「やあ、調子はどうだい？」といったかんじで話しかけながら感動するほど自然にすうっと列の中に割り込んでくるのだ。そして話つづける。ほとんどの場合、周りの人が文句を言うことはないの、誰もがやる普通のことなのだ。理解したが、慣れないころは、あっけに取られてよくその人を見つめたものだ。気付いたらいつまでたっても自分が列の最後尾ではないか。私は身



長163センチで日本では自分を低いと感じたことはないが、ロシアでは見上げることが多かった。そのため、のっぽのロシア人たちに押しやられないよう、前の人との間をあけないよう、また、小さな隙間を見つけては少しでも前に進もうとかなり神経を張っていた記憶がある。負けてられるかといったかんじである。そんな私も、徐々に友人も増えてきたところに、なんと「やあ、元気？」といひながら割り込みに成功。心臓が激しく鼓動している自分を小心者だなあ思う気持ち反面、後ろのロシア人に対し、してやったりという思いもあり、また、そんなことで喜んでいる自分が小さな人間に思えたり、ロシアの習慣になれてきた自分が嬉しかったり悲しかったり、とにかく複雑な気持ちであった。しかし、それはたった一度のみ経験に終わったのだが。

街では、救急車や政府の車が、他の車に道をあけるよう、サイレンを鳴らしながら猛スピードで走っているのを見かける。しかし、それらの車が時々反対側斜線に入り込んでいたりするのである(つまり逆走しているわけだ)。また、そんなときまって、まったく関係ないと思われる普通の車が2台ほど後に続いて爆走している。モスクワの街をぐるりと囲む大環状道路から市の中心を通過して、再び大環状道路にでるまで、車だと最短では40分ほどでいくことができる。しかし、そこはさすがに人口850万人もいる大都市モスクワである、渋滞になれば同じ距離でも3時間かかってしまうのだ。そのうえ、一方通行も多いとなると、猛スピードで駆け抜ける救急車の後に便乗したい気持ちはわからなくもないのだが……ロシアよ、それは許されることなのかといつも問いただしていたものである。

クラブ・サークル紹介

ジャズダンス部

ジャズダンス部は、1年生21人、2年生19人で、毎週月曜日と金曜日に活動しています。金曜日には先生に来ていただき、基礎の練習や舞台の振り付けをしていただいています。

1年の中で最も大きな行事は、大学祭の大講堂での舞台です。この舞台を目標に1年間頑張っています。夏には、部員全員の気持ちを引き締め、振り入れの完成と踊り込みを目標とする合宿と集中練習があります。舞台以外にも自分たちで振りを作るストリートや、ゲリラで年3回ほど踊ります。ストリートの練習は各グループで集まり、部活以外の時間に行っています。みんな踊るのがすごく好きで、部活全体が楽しく踊っています。今

年もお客さんを魅了できるような舞台ができるように、頑張りたいと思います。



草薙スクエア

「自分が食べるものくらい知ろう」という気持ちと同じような気持ちで、「自分の通う大学のあつ場所の事くらい知ろう」というコンセプトで始めたのが「草薙スクエア」です。

よく知ると段々と好きになって愛着も湧いてきますよね。いつも自分が歩く場所を好きになれるなんて素敵なことだと思いませんか？

大学のみんなだけでなく、草薙に関わる全ての人々、そして何より草薙スクエアのメンバーである僕自身が草薙を知るよい機会をメディア(目下ホームページ)を通して提供するのが私たちの活動です。

ホームページには飲食店紹介の「ごちそうさま草薙」、雑貨屋さんの「ちょっとそこまで草薙」、県立美術館を身近にする「草アート」など様々なコーナーがあり、必見の特集ではこれまでに草薙龍勢火花、草薙をみちくさする散歩コース紹介、草薙商店街の紹介など、内容も盛り沢山です。



さあ、今すぐアクセスしてみてください！それが無理なら明日学校で！それも無理ならいつかきつと！

URL : <http://www.csc.jp/kusanagi>

(ホームページ上に簡単な活動内容が紹介してあります。)

去年春4年生を主体に始めた活動ですが、よりホットなサイトにするためにメンバー大募集です！大変いい経験になるだけでなく、新たな楽しみができる活動なので、少しでも気になったら連絡下さい！E-mailはkusanagisq@hotmail.comです！

思い出し始めたら切りがなく、今回の「はばたき」をすべて「信じられないロシアの話し」で埋め尽くしてしまいそうな勢いであるが、こんなくだらないことばかり考えていたのかという声が聞こえてきそうなので、この辺でやめにしようと思う。また、皆さんに、ロシアに対して変なイメージを与えてしまったのではないかという不安も出てきたことなので。

もちろん留学の主たる目的はロシア語の勉強であるから、それについても触れておかねばなるまい。その日学習したことをすぐに生のロシア語の世界で実践することができ、そこでの言葉が通じる感動というのはひとしおである。「これだから言語の勉強は楽しい」と思える瞬間であるし、より一層、勉強意欲も湧く。微妙なニュアンスの違いで使い分けられる言葉といものは、その言語が話されている国に行き、そこに生きる人、文化、気候に実際に触れることでより自然な形で身に付けることができるというふうにも実感した。ロシアで経験したことのすべてが私にとって大変貴重なもので、今でもそれらは私の胸に強く焼きついていて。そして、このような素晴らしい機会を与えてくださった静岡県立大学、いろいろお気遣いいただき、お世話して下さった島田、西山両先生に心から感謝したい。

『全てはうまくいく』

国際関係学部4年 山田有紀子

「全てはうまくいく」、ロシア人はこの言葉をしばらくの別れの際によく使う。



近藤さん(右)と山田さん

日本語に例えるならさしずめ「お元気で」だろうか。この言葉を耳にするたびにロシア人の人柄の深さに触れた気がする。

私は2001年9月から3ヶ月間、モスクワ国立国際関係大学で学ぶチャンスを得た。この3ヶ月で数え切れない人々と出会い別れた。そんな中で「全てはうまくいく」の言葉と共に私の心に残る1人の老女とのエピソードを紹介したい。

雪が路面に積もり始めた11月の午後3時、私は4kgの小包を日本に送ろうと、寮から10分の所にある郵便局を訪ねた。しかし局員は「ここからは送れない」と通りの名前と「14番地」と書かれた紙を私に渡した。地図を書いてもらえるよう頼んだが、「忙しい」と言ってすぐ他の仕事に移っていった。そこで私はこんな簡単な住所しか書かないのだからこの近くに違いないと判断して、自力で探すことに決めた。郵便局探しの旅の始まりであった。

まず、郵便局で用事を終えたばかりのお婆さんに紙を見せて訪ねると、近くの通行人と2人で話し合った後、ある方向を向いて指差して教えてくれた。お礼を言って歩き始めたが、しばらく歩い

ても14番地は見当たらない。近くで雪かきをしていた男性に聞いたが「ここにそんなものはない」と言われた。そのまま歩き続けると公園でくつろいでいる子ども連れの夫婦に出くわし、尋ねると、ここにはないから来た道を戻るように答えた。半信半疑で近くを歩く会社員らしき男性に聞くと「この方向で大丈夫」と答えてくれた。続けて30分程歩くと建物がなくなり森が現れた。この方向で正解なのか不安になるが、会社員の言葉を信じて更に20分歩くと再び街が見えてきた。一安心する。いつのまにか地下鉄一駅分を歩いていた。しかし郵便局は見当たらない。バス停に立っている女性に質問すると「ずっと向こうにある」と私が今来た道を指し示した。この言葉に重い荷物がずっしりと両手にのしかかった。歩き始めて2時間近く、絶望で疲労が最高潮に達した。「もう戻ろかな」そう考えたが、今までの苦労が無駄になるし、ロシアに負ける気がしてやめた。

そのまま先に進んで、次に会う人が「ここに郵便局はない」と言ったら引き返そうと決めた。やってきた70歳を越えていそうな老女を通りど番地を言い、知っているかと聞いた。老女の答えに何の期待もしていなかったし、寒さと疲れから私はひどい顔をしていたと思う。しかし彼女はにっこり笑うと300メートル程先の白い大きな建物を指差した。「あの白いのが10番地。14番地はあの近くよ」まさに地獄に仏。嬉しさのあまり何度もお礼を言うと、彼女は私の肩を抱いて「一緒に行ってあげたいけど、おばあちゃんは足が遅いから。あなたは急いでるでしょ。」と言った。早く行っておいでと微笑むと「大丈夫、全てはうまくいく」とロシア式の別れの挨拶をして私に手を振

った。

ちなみに私が郵便局を探し当てたのは午後6時、実に3時間にも及ぶ冒険であった。

モスクワで経験した全てのことが日本とロシアの文化や価値観の違いを気付かせてくれた。それはカルチャーショックという形で表れ、それが楽しくもあり、時に憤りを感じもした。しかしどんな時にでも、このロシアという広い土地や自然の美しさを前にすると「大丈夫、問題ない。」とこれまたロシア人のよく使う言葉を口にしてしまうのだ。

「全てはうまくいく」と、相手の未来の幸せを願うロシア人の別れの言葉に、厳しい歴史に翻弄されながら生きるロシア人の強さ、深さを感じる。

「全てはうまくいく」この言葉を胸に、ロシアでの経験をバネに、大きな世界に船出していきたい。「全然問題ない」と自分を励ましながら。

最後に、留学の機会を与えていただいた、西山先生、島田先生、静岡県立大学、そして両親に感謝の言葉を述べて結びに変えさせて頂く。本当に有難うございました。



日中健康科学シンポジウム開催 浙江省医学科学院から9名の先生が来学

第5回日中健康科学シンポジウム
(5th Japan-China International Symposium on Health Sciences)
の開催および浙江省医学科学院との
学术交流について
第5回日中健康科学シンポジウム
実行委員会委員長 鈴木康夫

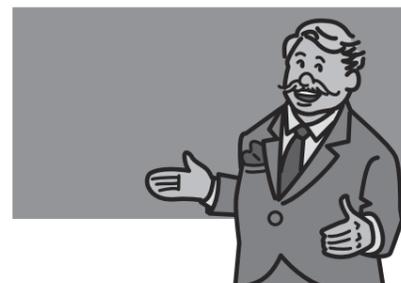


回の演題は、幅広く、生命科学、創薬、機能性食品、環境科学の分野に及ぶもので発表内容も多彩でした。参加者も、本学の教員、学生のみならず、県立総合病院、県衛生環境センター、企業および留学生の皆様、さらには一般県民の方々の参加もあり、今までない事でした。発表は、口頭発表30題、ポスター発表25題であり、今までのうち最も多く、全体の参加者は、199名を数えました。本学の大学院学生による口頭およびポスター発表も活発で、学生の参加は133名にのぼりました。2日目には、本学食堂で、交流会を設け、中国からの留学生も多く参加し、大変にぎやかでした。

このシンポジウムの発表の中から実りある新しい共同研究が生まれることが期待されます。

本学と中国浙江省医学科学院との大学間協定に基づく第5回日中健康科学シンポジウム(5th Japan-China International Symposium on Health Sciences)が2001年12月5日(火)、6日(水)の2日間、本学において行われました。このシンポジウムは、1991年(平成3年)静岡県立大学薬学部と浙江省医学科学院薬物研究所との文化科学技術交流に関する協定の締結をきっかけに、1993年(平成5年)12月、本学にて第1回日中健康科学シンポジウムを開催以来、2年毎に開催場所を浙江省医学科学院と本学とし、今回で5回目を迎えました。浙江省医学科学院からは、張院長を代表とした合計9名の参加があり、中国の伝統医学に関するものから、最新遺伝子関連の発表まで活発な討論(言語はすべて英語)が行われました。

今回は、静岡県立大学創立15周年記念事業の一環としても行われたことが特徴と言えます。今



学生文芸コンクール 評論の部 最優秀賞

指定課題『学生から産業界への提言』

～静岡県経済同友会の提言を読んで～

国際関係学部3年 酒井美穂

昨年11月3日の剣祭で表彰を行いました「静岡県立大学はばたき寄金」主催第5回学生文芸コンクールの評論

1. はじめに

『産学連携のあり方・すすめ方に関する提言』(以下『提言』)を読んでということであったが、確かに現在の学生・大学(学校)に対しての現状批判を含めた将来的な方向性への提言として有益なところもあったが、これに関して私自身の考え方との相違点がいくらかあったこともまた事実である。今回の評論ではこの提言に関して私自身が考えたことをまとめ、さらに現在学生である私の視点からの再提言をしたいと思う。

2. 『提言』についての批判的検討～ 「学(学生・学校側)への提言」について～

これからの企業と学生、学校の連携を考える際、日本の経営の限界、実力主義などを含めた時代の変容、めまぐるしく変化する社会的背景を考慮することが必要不可欠である。

しかし、この『提言』の中では、これらの「日本経営の限界」「実力主義型」というキーワードがでてきてはいるものの、学生・学校側への提言に際してそれらの意味が十分に理解されているとは考えにくい。就職難である社会状況における学生、学校側からの視点が不足していると感じるのである。そこで、ここでは学生への提言に対して批判

的検討をおこなうこととする。

2-1. 基礎学力の低下について

『提言』では、「基礎的職務遂行能力や基礎的学力が著しく低下」、「産業界の求めている、又必要な基礎的知識や情報をほとんど持ち合わせていない学生が近年多く見られる。」「(『提言』1-(1)-)」などとある。はたして本当にそうだろうか。上記の記述に続いて、「より現場と現実に興味をもち、日常的にそれに関する情報を得る努力をすべき」ともある。このことから、ここで言っている基礎的学力とは産業界に対する興味と情報のこととも考えられるが、果たしてそれらの情報が本当に「近年の学生」のみ「著しく低下」しているのかはなほ疑問である。これには先述したように社会的背景の考慮が不足している。

小泉内閣が構造改革を推し進めるなか、失業者は300万人を超え、完全失業率は5%をこえ、これらの現象は「痛み」とともに、拡大傾向にあり失業者もさらに増加するとされている。平成12年度労働白書によると、有効求人倍率も比較可能な1963年以降で最低となり、新規学卒労働市場は、大卒、高卒とも1999年の就職率は過去最低となり、2000年も引き続き厳しい状況にあった(注1)。

このように現在学生が就職をするにあたっての社会的条件が整っておらず、むしろ不安定といつてよい。企業は実力主義型となり、不況の中、企業をたてなおすための有能な人材を求めるようになってきているのである。つまり、学生にとっては、大学での自分の専門分野の研究と並行する形で、企業の求めているニーズを学び、そのための知識が求められているという状況なのである。このような状況が果たして今までであったらうか。20、30年前にはこれと比較して失業率も失業者も低く、当時の学生にとっては就職先を選べる状況にあったといっても過言ではない。当時の学生が現在の学生よりも企業（就職）に関する意識が高く、そのための基礎的学力を身につけていたのだろうか。

つまり学生の基礎的学力が著しく低下したのではなく、企業のニーズの水準が高くなったのであり、そのギャップを企業が「学生の学力低下」と捉えているに過ぎない。学生にとっては雇用不安と共に、それがますます厳しい要求であると感じるのである。

2-2. フリーターについて

フリーターについても「目的・目標のないフリーター思考の学生は急増」とある。ここでは、フリーターが「目的・目標のない者」とされているが、この定義自体がフリーターへの認識不足なのではないだろうか。

現実にフリーターが増加しているのは確かであ

る（注2）。特に平均的な大学生の年齢にあたる20 - 24歳の年齢階級において最も多いことが明らかである（注3）。一方でフリーターの正社員希望者は多く、女性の20歳未満では、7割弱が希望しており、また、男性ではより年齢があがるにつれてそうした希望が高まっているのである（注4）。

このことから、就職願望があるにも関わらず就職できないフリーターが少なくないことがわかる。この就職難はもちろん先述した失業率の増加などの社会的不安に加えて、企業の中途採用の拡大も影響していることが考えられる（注5）。

2-3. 離職者について

『提言』では、離職について「やむを得ないと考えている企業は1社もない」とあり、さらに「学生は（入社後3年間は基礎的教育機関であり費用対効果が期待できないことを）理解認識すべき」とある（『提言』1 - (1) #）。

私自身なぜこのようなことが言われるのか理解できない。なぜなら離職をすること自体、実力主義の社会なら当たり前のことであるからである。企業が離職を学生側の責任ととらえていることこそ問題なのではないだろうか。今までの終身雇用制・年功序列型の日本的経営が限界にあるからこそ、転職・またあたらしい自己実現の場としての再就職などといった社員の職業選択の自由がでてきているのである。また、先述した様々な社会的背景により、いつ企業が倒産するか、いつリストラの対象とされるか不透明な時代で、自分により

あった仕事をしたいという欲求が出てきてもおかしくないのである。

実力主義とは労働者の側から企業を評価するという意味も含むのであって、むしろ企業は社員にとって魅力ある、働き甲斐のある職場環境の整備に向けた努力をしなければ離職はすすむのではないだろうか。

2-4. 「学校側への提言」について

この『提言』で求められているもの自体不透明な点がある。それは学生（学校側）に求められているものが何であるのかという点である。基礎的知識（これは一般教養も含まれると思われるが）を求めているながら（『提言』1 - (1) - ）一方で語学・パソコンなどの技術も求めている（『提言』1 - (1) - ）。これでは大学にもとめていものは教養教育なのか、実践的教育なのかかわからないのである。もちろん両立される形が理想的であるが、企業の求めている大学の方向性が明らかでないと思われる。

また、「企業が期待しているものは情熱・語学・パソコン（『提言』1 - (1) - ）」「技術・技能・知識の習得に努めるべき（『提言』1 - (2) - ）」としていながら、資格取得についての批判をしているのはなぜだろうか。資格取得が技能習得や情熱を表すものとしての意味づけにならないのであれば、いったい企業側が何を求めているのか、学生は疑問である。

3. 産学・学生のやるべきこと

～学生の視点から～

いままで『提言』に関しての批判的検討を行ってきたわけだが、フリーターの増加や失業者の増加、また企業の求めるニーズと学生の能力のミスマッチが社会的問題であることは確かである。そのため、政府の出した雇用対策についての案を踏まえた上で、最後に産学連携のあり方について学生である私の視点から考察を行いたいと思う。

3-1. 政府の雇用対策についての現状

政府の産業構造改革・雇用対策本部は2001年9月20日に、総合雇用対策についてまとめた。この対策の中には雇用のミスマッチ解消のための対策が盛り込まれている（注6）。これによると、「しごと情報ネット」の拡充・民間職業紹介所とハローワークの提携やサービス提供時間延長・職業安定機関での訓練コース情報のリアルタイム提供に加えて、個人の主体的な能力開発を推進するシステムの整備としてキャリアカウンセラー（転職相談員）の養成などがある。さらに、若年者の試行就業支援や高度な人材の育成のための奨学金の拡充も盛り込まれている。

これら政府の案は具体的で、就業意欲のある学生にとっては心強い後ろ盾となるものとして利用できそうである。静岡県内でも企業の情報提供の拡充や、さらなる奨学金制度の充実をはかることを学生としては企業に求めたいものである。

3 - 2 . 産学の連携

『提言』のなかでも提唱している人材問題を引き続き調査研究するための県内教育機関に呼びかけた「静岡県産学連携フォーラム(仮称)」といったものを作ることも建設的でありたい。大学としての企業の求めるニーズが何であるのかを聞き、それに対応したカリキュラム変更の検討をすることは、就職希望の学生が圧倒的に多いことから重要なのではないだろうか。

また、ビジネススクールの開学にも、県が協力して行うべきである。先述したとおり、現在の学生は自分の興味関心分野である専門知識に加えて、就職の際に実践的知識や技能を求められることが多いのが現実である。そのための技術習得希望の学生にとっては、ダブルスクールや、大学ではなく就職のための技術を身につけることが目的のビジネススクールの開学が選択肢を広げることになりうるのではないだろうか。

4 . おわりに

大学生が在学中に就職に向けた技術習得に努めること自体に異論はないのだが、それが大学の目的と化してしまうのには、疑問がある。もちろん、就業のために大学へ来ている学生も少なくない。学校側も学生の進路として密接なかかわりのある企業との意見交換をしながら、カリキュラムや大学の制度・設備に関する検討をすることが必要とされているのである。

しかし本来の大学生の目的は、学問の自由のも

とに自分の関心分野について専門的に研究し、それについての知識をつけることである。大学の目的とはこのような学生の目的を実現するための環境を提供することでもあるだろう。つまり、企業との話し合いは重要視しつつも、何かに縛られる形ではなく学究の場でもあり続けることが、これからの大学に求められる方向性なのである。

脚 注

- 1 . 平成12年度『労働白書』p7
- 2 . 同書 参考p77 第2 - (1) 11図
- 3 . 同書 参考p77 第2 - (1) 12図
- 4 . 同書p22
- 5 . 同書p23 - 24
- 6 . 朝日新聞 2001年9月21日

参考文献

- 日本労働研究機構 『平成12年度版労働白書』
朝日新聞 2001年9月21日



強い骨を作ろう！ 剣祭イベント報告

看護学部 助手有志

11月5日に看護学部棟1F実習室において、第15回剣祭イベントの一つとして「強い骨を作ろう！ - あなたの骨は大丈夫？ - 」と題して、看護学部助手有志(看護婦、保健婦、助産婦、管理栄養士)5名と看護学部1、2学年ボランティア4名による骨密度測定と運動・栄養指導が行われた。剣祭期間中であり、事前に大学周辺町内会への呼びかけを行ったため、予想を上回る198名の参加があった。全員にアンケートを行い193名から回答を得た。約4割が一般の参加者で、70歳以上の方、ご夫婦、子供連れの参加者も見られた(写真)。参加者は健康維持に関心が高く、相談コーナーでのアドバイス



骨密度測定を受ける廣部学長

に熱心に耳を傾ける姿も見られた。今回は、男女別・各年代の骨密度結果について報告する。

1結果:

今回使用した測定方法は、超音波法による踵骨の骨評価法である。この方法は、X線測定法により評価される骨密度との相関がきわめて高く、かつ、測定時間が短く、非侵襲的という点で幅広く利用されている。評価値(%)は96年度の標準値をもとに、被験者の測定値/同一年齢の標準値×100で示している。図1に示すように、標準値に達した年代は、男性では50代のみ、女性では10代、70代

以上のみであった。特に骨量が最大(ピークボーンマス)となると言われている20~30代の男女の平均値が、ともに標準値を下回っていた。男性の各年代別平均値は、一部を除いて全体的に標準値より低い傾向にあり、女性は、20~60代にかけて低い傾向を示した。しかし、今回の結果については表1のとおり、対象者数が少ない年代があるため、年代別平均値には偏りがあることも考えられる。

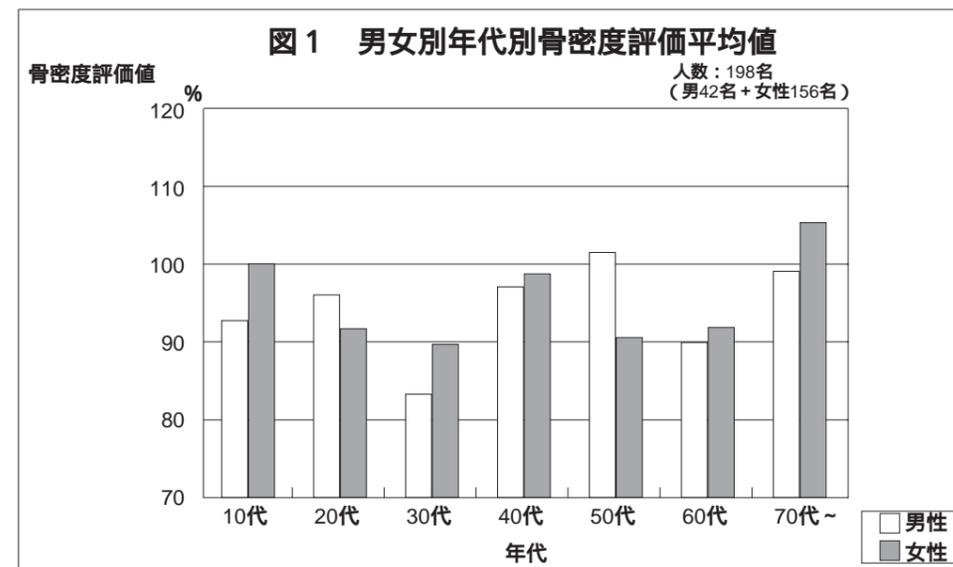


表1 男女別年代別骨密度評価最大値と最小値

	10代		20代		30代		40代		50代		60代		70代～	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
人数	2	14	26	81	1	16	2	13	1	9	3	15	7	8
最小値(%)	87	85	71	74	84	73	85	89	102	82	74	80	89	90
最大値(%)	99	134	121	131	84	112	105	112	102	100	100	116	110	106

おわりに：

今回のイベントはたった1台の骨密度計使用で5時間程度の実施であったにもかかわらず大変盛況であった。全くの有志団体として開催したものであり、今後の実施については白紙だが、本学学生も含めて「自分の体を知るよい機会」、「年齢とともに変わっていくものなので気をつけたい」という声がアンケート回答者の75.6%から寄せられた。今回の測定とアンケートの結果から、骨密度と学生・地域住民の生活スタイルとの関連などをもう

少し分析・考察して、次号でご報告したい。



イベント終了後の実行メンバー記念写真
看護学部助手5名、学生3名（学生はあと1名参加）

交通安全若者キャンペーンに参加して

経済情報学部 3年 漆畑光介

初めて私が交通安全若者キャンペーンという県の企画を知ったのは、大学の事務の方からのお誘いがあったときでした。

私自身、周囲で交通事故に遭った者が絶えず、関心がありました。そして常日頃、母親から顔を合わす度に、口を酸っぱくして交通事故だけでは気を付けるように言われ続けてきた私にとって、このキャンペーンは否応なしに参加しないわけにはならないものでした。

去年の交通事故の状況についてみれば、死者数こそ前年を下回り、第一次静岡県交通安全計画が策定された昭和46年以降、平成10年に次いで少ないが、事故件数と負傷者数は過去最悪でありました。極めて憂慮すべき状況です。しかもその事故の原因の大半はスピードの出しすぎや脇見運転

などの基本的な交通ルールの無視や交通マナーの欠如です。このようなときに、交通安全を呼びかけることは大きな意義をもっていますし、そのような仕事ができることは光栄なことです。

これからは私生活においても、自分自身の交通安全はもちろんのこと、周囲の人たちにも交通安全の意識の高揚に努めていきたいと思います。



石川知事のメッセージを読み上げる漆畑君

看護学部の動き

看護学部長 佐藤登美

看護学部は、平成9年に本学の5番目の学部として開設され、今春3月、初めての卒業生を社会に送り出しました。本学で、最も若い学部といえます。そこで、学部のごく簡単な紹介を混ぜながら、

4月以降の主だった動きについてあげてみます。

定員は1学年60名、全学年で240名（現在、在籍244名）ですが、4月には新たに看護学研究科が設置され、8名の院生が入学してきました。また県民や臨床サイドから待望されていた社会人・編入学制度が導入され、社会人2名編入学生5名が加わって、キャンパス全体がちょっと大人っぽく、賑やかになりました。このようにして、看護学部は現在、県下の看護職員の高等教育機関として中核的な役割を担うに相応しい体制を、次第に整えつつあります。

まず教員組織についてですが、開設からの4年間（学年進行）が終わり数名の移動がありましたが、平成13年4月1日付けで、教授12名、助教授3名、講師8名、助手14名の37名であり、このうち17名の教員が研究科を兼務しています。したがって、なかにはとても忙しい教員もおりますが、それぞれに、開設当初の情熱を失うことなく、静岡県立大学の理念及び学部の教育目標である、「生命の尊重を基盤とした」知識も技術も兼ね備えた、県民の方から信頼されるような「高度にして専門的な看護職の育成」という課題に取り組んでいます。

教科やカリキュラム関係では、昨年度、平成9年改正の『指定規則』に適合させるべく、一部不具合の教科内容や進度を検討し改正したカリキュラムにそって、新入生の学習は始まりました。2～4年生は旧カリキュラムで行われているため、新旧のカリキュラムが同時に進行することから、

教員にとっては煩雑な教科プログラムとなっています。また、臨床看護者のニーズも高く応募者数も多い編入学生の定数に関しては、本学の学則30条の規定の「欠員がある場合に限り」という制約を外して、「若干名に限り」にして頂くべく、その改正を全学の教務委員会に提案し、評議会の議を経て了承されました。この改正に至った背景には、本学部が現任教育の一端を積極的に担うことで、一人でも多く臨床（地）看護者が学べる機会が増え、現場の看護サービスの実質的な向上に貢献したいという教員の願いがありました。

次に、今年は静岡県立大学が創立15周年を迎え、その記念事業が企画されましたが、看護学部は「特別公開講座（静岡新聞・SBS共催）」「自閉症の家族支援サロン」「がんばれ難病患者・連続勉強会」「第6回精神看護授業研究会」「学生運動会」「地域住民と学ぶフィジカル・アセスメント」「震度7発生！～もしあなたが県大にいれば～」（防Z）といった数多くのイベントをプログラムし、積極的に参加してきました。こうした事業への取り組みは、看護学部が地域社会の要請に敏感に対応し



ようとする姿勢を示すものですが、しかしそれだけでなく、「学生運動会」「地域住民と学ぶフィジカル・アセスメント」「震度7発生！～もしあなたが県大にいれば～」(防Z)などでは、教員と参加する学生とが協同して、正規のカリキュラムでは学べない内容や体験を作り出すことに成功しています。今後も継続して、このような看護学の特性を広く県民や学生と共有するための場と活動づくりを、学部として創出していきたいと考えています。

そのほか、今年は大学全体で評価に取り組んだ年でした。本学部も、この全学的な意向を受けて、学部としての「自己点検・評価」の本格的な作業を行いました。看護学部の場合、点検や評価の対象となるのは平成9年の開設～平成12年までの4年間です。4月早々、この評価のための特別委

員会を設置し、『大学基準協会』のガイダンスにそって他大学の評価作業などを学習し、全教員体制で過去4年間の学部としての教育研究業績や社会貢献(活動)などの足跡を振り返り、教育理念や目標に照らして点検・評価を行い、その結果を12月末、報告書としてまとめました。現在、その報告書(資料付き)をもって、外部評価者に評価をお願いしているところです。ともあれ、こうした点検や評価の結果を、学部の教育研究活動の改善や改革に生かしていかなければ、意味がありません。このことをしっかりと肝に銘じて、高齢化や少子化のさらに進む状況下で、看護という専門職のもっている社会的な機能を十分に発揮して、県民に期待される学部として成長していきたいと考えています。



県立大学周辺の地域防災訓練に参加して

防災ボランティアサークル 防'Z 代表 看護学部2年 福岡奈津子

本大学の創立15周年記念事業として後援会に援助していただき防'zは地域住民が行う防災訓練に参加することになった。そのため、私達は災害時に何が必要か考え、約3ヶ月かけて準備を行った。平成13年12月2日、静岡市宮の後公園、清水市谷田自治会館、清水市西の谷公園で行われた地域防災訓練に参加した。この防災訓練は第二次世界大戦中に静岡市を中心として起きた大地震を教訓に毎年12月第1週日曜日に行われている。地域防災訓練では心肺蘇生法と受傷時に用いる三角巾の使い方を説明し、地域住民の方にも体験していただいた。また、災害時に必要な食品や薬、非常持ち出し袋などの内容を紹介した。初めての経験に皆苦労したが、様々な方の助けで無事成功をおさめることができた。地域住民の方も「勉強できた」、「手伝ってくれて助かった」、「来年も来てほしい」と喜んで下さり、特に災害時に水不足が起きた時に使用する「池や川の水を簡単に飲料水に替えるストロー」には大変興味を示された。県立大学の西側にある芝生公園は、いざというときの一次避難地に指定されているため、周辺地域の住民の方が避難する予定である。私たちは、防'zの活動を



通して本大学の学生と地域住民がより親しい間柄になり、助け合える関係となることを望んでいる。

このサークルは看護学部を中心に、平成12年9月に結成されたものである。薬学部や看護学部などで学ぶ学生の特色を活かして、学生・職員・地域住民に対して、防災・救命に関する知識や技術の普及に努める、地域住民と静岡県立大学の交流を深め、災害時における相互扶助の実現をはかる、ことを通して予測される東海大地震に対応できることを目的としている。これまでは阪神大震災の際にボランティアがどのような行動を行ったかを学び、消防署の普通救命講習を受講し、心肺蘇生法の技術を習得している。今後は薬学部・看護学部以外の他学部の学生にも協力していただき、県立大学で学んでいることを活かして東海大地震に備えて対応できるよう勉強し、地域住民の方と交流をはかっていきたいと考えている。参加したいと思う方はk0044@mail.n.u-shizuoka-ken.ac.jpまでご連絡ください。



大学院薬学研究科医療薬学専攻の設置

平成13年6月に文部科学大臣あて協議をしていた大学院薬学研究科医療薬学専攻（修士課程・博士後期課程）の設置が平成13年12月20日付けで文部科学大臣から承認されました。

新たに設置が承認された専攻（開設年月日：平成14年4月1日）

専攻名	課程	入学定員
大学院薬学研究科	修士課程	20人
医療薬学専攻	博士後期課程	5人

これにより、平成14年4月から、大学院薬学研究科は既存の薬学専攻、製薬学専攻に医療薬学専攻が加わり3専攻となります。

医療薬学専攻は、医薬分業の進展や薬剤師業務の多様化などに対応するための医療薬学教育の充実強化という社会的ニーズに応え、臨床現場で主導的役割を担い、医療人として専門知識を発揮できる薬剤師の育成や社会人の再教育を視野に入れております。

一方、臨床現場に直結した基礎薬学への研究志向も高まっていることから、医療薬学を支える生命科学の研究を通して医療薬学の教育者や研究者の育成も図ることとしております。

医療薬学専攻では、患者遺伝子情報に基づく体質別治療、薬物相互作用や血中濃度の解析等の専門知識や技術の修得のほか医療薬学系特論の必修科目数を増やすなど臨床薬学教育に力点を置いたカリキュラムとなっております。

特に臨床コースは、県立総合病院内に新たに設けた医療薬学専攻講座を拠点として、県立総合病院との連携のもとに6ヶ月間の病院実務実習を必修としております。このように大学と病院とが密接に連携して医療の担い手としての高度な職能を持った薬剤師の養成を目指すシステムの構築は全国でも初めてのことであり、今後の進展が期待されます。

“はばたき寄金”からのお知らせ

< 最近の事業 >

海外交流大学であるモスクワ国立国際関係大学から短期交換留学生として来校する3人の学生に、2月6日、寄金の代表である廣部学長から奨学支援金として一人につき6万円を支給します。

< 1月末寄金残高 > 4,045,020円

前回報告（78号）以降の寄附者（寄附金総額 11件 444,000円）

教職員（敬称略）

田中圭、辻邦郎（薬学部）、木苗直秀、野沢龍嗣（食品栄養科学部）、大平純彦（経営情報学部）、杉山千歳（環境科学研究所）、中川一政（事務局）

学外

大石紀子様（静岡女子短期大学卒 清水市在）、おおとり会様（静岡女子短期大学・静岡女子大学同窓会）

静岡県建築士会様、第8回国際変異学会実行委員会様（委員長：食品栄養科学部 木苗直秀教授）

県大前池の鯉の病理解剖所見

看護学部機能形態学教室 木村 忠直

本学の正門中央に円形の池があり、なかに美しい鯉が20匹ほど遊泳しており、見るヒトの気持ちを癒してくれる。鯉も生き物であるので、ヒトと同じく発育、成長、老化の進行は、生物学の原則に従っており、この過程で各種の病気に犯されるのは生物の宿命である。この池で特に大きい一匹の鯉が、5月(平成13年)の上旬ころから腹部が膨満して、写真1のAとBに示したように異様な姿態となった。4月から5月にかけては、鯉の産卵期間であるので、これを知っているヒトは、卵を孕(はら)んでいるものと見たヒトが多かったと思います。私は以前から時々、これらの鯉にエサを与え行動を観察していたかぎりでは、この鯉は雄と見なしていた。従って腹部の膨満は何らかの疾患であり、第1に腹水(ascites)を疑った。また、腸にガスが溜まる鼓腸(meteorism)あるいは腹壁にできる脂肪腫(steatoma)などの腫瘍を考えた。そうこうしているうちに6月に入り、鯉の腹部は更に膨張が進んで、鱗が隆起し皮膚表面が腹圧のために鬱血(うっけつ：静脈血流の停滞)して発赤(ほっせき)し、ついには誰の目にも病的状態であることが認められるようになった。他の元気な鯉と対照的に泳ぎが鈍くなり、一箇所に静止している状態が長く続いた。一部の教職員や学生の方が心配していたが、ついに7月上旬に命がつかせてしまった。幸いに事務方

のヒトが氷詰にして保管しておいてくださったので、この鯉を学部の比嘉肖江講師の助介により病理解剖に伏すことができたので、その所見について報告いたします。



写真1Aは腹部が膨張して姿勢が異常を示している鯉。
Bは正常な鯉と共に遊泳している膨満の鯉。

病理解剖所見

病理解剖の目的は生前の正常な機能形態が、どんな構造によって死に至ったかを追跡するものである。これには肉眼解剖学的な検索と顕微鏡検査による病理組織学的な検索がある。受け取った時点での鯉は、写真2に示されるように腹部の膨張は消失しており、腹鱗(はらびれ)の腹壁をみると腹筋と皮膚が壊死(necrosis：局所死)して、小さい穿孔(せんこう：穴)が左右の2箇所があり、ここから腹水が流失し、腹部の膨満が物理的に解除されたことが考察された。次いで総排泄腔(消化管の末端でヒトの肛門に相同と泌尿生殖器が開口している部位)を基点にして、左右の胸鱗にかけて下顎の近位まで、腹部内臓と胸部の心臓が見えるように正中線にそって切開した。はじめに卵巣がない点で雄であることを確認した。写真3で認められるように腹腔内の所見は、腸管膜静脈や他の毛細血管網が全面的に鬱血し、特に写真3における矢印Aの肝門脈が怒張して血液の鬱滞(うったい)による血行障害を示している。この腹腔内の所見から門脈圧の亢進や血管壁の透過性が亢進し、血管から腹腔に水分の移動がおり、漏出液が貯留し腹水に至ったものと診断される。腹水の原因には門脈系における鬱血の他に、心臓疾患や腎臓疾患があげられるので、写真3における矢印Bの心臓を摘出し写真4に心外膜を取り去り拡大して示した。心臓は肥大して形態的に変形し背面も腹面も全体的に凹凸しており、この突出部を実体顕微鏡で観察すると、多くの瘤(こぶ)が出来ていることが判明した。つま



写真2 腹壁の穿孔により腹水が流失した状態の鯉



写真3 胸部と腹部を切開し腸管膜静脈や肝門脈の鬱血状態を示した。胸腔や腹腔内の出血はない。Aは肝門脈の怒張、Bは心臓。



写真4 魚類では1心房1心室の心臓で腹面からの形態である。矢印の方向Aが心房、Bが心室である。この心臓は肥大しており、特にBの心室には隆起した瘤が多く認められる。

り心臓瘤(cardiac aneurysm：しんぞうりゅう)である。これは心筋層の局所に高血圧に対する抵抗減弱部位が何箇所かにでき膨張し、これが瘤となり波及的に形成されたことが示唆される。魚類の心臓はヒトのように2心房2心室と異なり、静脈血がもどる心房が1つ、動脈血で全身に血液を送り出す心室が1つで、1心房1心室の心臓である。瘤の好発部位は特に心室壁に多く認められた。

病理組織学的所見

心臓を切開し心房と心室の内壁を実体顕微鏡で観察すると、局所的に出血斑が認められ赤血球のヘモグロビン(血色素)が遊離し、褐色のヘモジデリン(血鉄素)の沈着が写真5の矢印に示すように多く認められた。これがヘモジデリンであることは鉄イオンがフェロシアン化カリウムと結合して青色反応が示されることにより確認した(ベルリン青染色法)。次いで心室の心筋線維を観察すると、写真5のNに認められるように心筋線維が壊死しており顕微鏡で、その病変部を見ると心筋線維は腫脹し

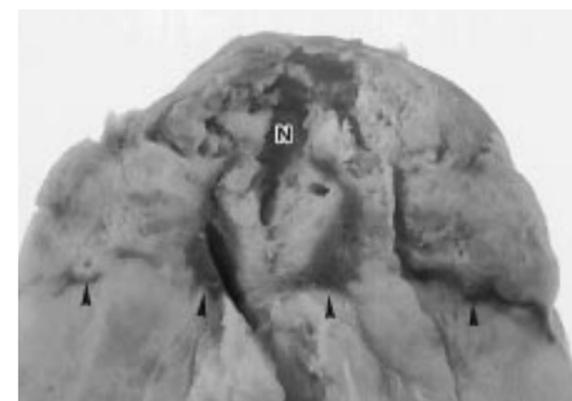


写真5 心室の内腔面を実体顕微鏡で拡大して示した。矢印は出血してヘモジデリンが沈着した部位である。Nは心筋線維が壊死を起こした部分である。

て横紋が不明瞭となり、リンパ球や食細胞が浸潤していた。ヒトにおける心臓瘤の原因には心臓に酸素と栄養を送る冠状動脈の硬化、狭窄、血栓、梗塞などがあるが、この鯉の心臓瘤の原因は不明である。死因は心臓瘤による血液循環障害から二次的に門脈系の鬱血を呈して腹水を併発し、慢性的に経過したことが死因として考察された。次いで内臓諸器官の肝臓、胆嚢、脾臓、腎臓、鰓(えら)、体幹筋や魚類特有の浮沈や平衡を司るガス嚢の鰾(うきぶくろ)および脳と脊髄を、肉眼による検査と顕微鏡による病理組織学的な検索を行ったが、出血斑などの異常は認められなかった。しかし慢性的に経過した心臓瘤による血行障害のため、どの臓器も栄養障害性の萎縮形態が認められた。



国際関係学部長に就任して

六鹿茂夫(むつしか・しげお)

学部長に就任するにあたり、さしあたり三つの柱を念頭に置いている。まず第一は、大学の基本が研究と教育にあるという初心に帰って、バランスのとれた研究と教育および学生へのケアに一層の努力を傾注したい。この点に関して、本学部教員の研究水準は、科研費の取得数や学会(海外を含む)専門誌、マスメディアにおける積極的な発表などに見られるようにそれなりの高い評価を受けてきており、それを反映して専門教育の水準も満足のいくものと自負している。したがって、今後は、これら充実した専門教育に加えて、実践の場で活用できる生きた語学力の習得とIT教育に力を注ぐことで、語学+コンピューター+専門教育の三位一体の充実化をはかっていくことが肝要と考える。と同時に、構造不況の影響を受けて苦しむ学生諸君の就職活動をより積極的に支援し

ていく体制づくりと、セクハラ・アカハラの予防体制の強化にも引き続き尽力していきたい。第二は、研究の成果を学会のみならず、広く世間に向けて、就中静岡県および世界に向けて発信していくことも不可欠と考える。公開講座や講演会、さらにはインターネットを通じて研究の公表をはかると共に、高大連携や産学連携をも活性化させていきたい。第三は、大学を取り巻く国内外の著しい環境の変化に鑑み、国立大学の行政法人化を睨んだ学部改革が不可避となるだろうが、この点に関連して、県大他学部との対話と協力を積極的に進めていく意向である。



静岡県立大学2001学術フォーラム()を開催

後藤研究費及び学長特別研究費による研究の成果発表会を昨年10月19日に引き続き開催しますので、学生・教員の多数の参加をお願いします。

日時	3月/4日・5日	
場所	看護学部棟 13411教室	
発表対象研究		
研究A	平成13年度学長特別研究実施者(特別推進研究)	11題
研究B	平成13年度後藤研究実施者(一般研究)	10題
研究C	平成13年度後藤研究実施者(茶先端生命科学研究)	32題(ポスター発表)

人事

就任

(平成14年1月1日付け)

六鹿 茂夫 国際関係学部長
任期は15年12月31日まで

採用

(12月1日付け)

木林 身江子 短期大学部助手

絵日記ジャーナル2001

小島 茂(経営情報学部教授)



話になった医師とナース・ステーションに1冊ずつ贈呈した。病気は大変だったが、日常生活とは違う世界に放り込まれて、さまざまな出会いがあり、貴重な体験をさせてもらったお礼の意味をこめた。

後日、冊子を英訳しアメリカの知人に送ったところ、「入院絵日記」は"Hospital Journal"と訳されて返ってきた。ジャーナルという発想はなくその響きも気に入ったので、「絵日記」と「ジャーナル」をつけて「絵日記ジャーナル」という言葉を作った。

「絵日記ジャーナル」は退院後も今日にいたるまで続ける。退院後は、自然や生命あるものをより注意深く観察するようになった。12月下旬には、紹介してくれる人がいて、静岡中央郵便局でミニ個展を開いた。年後半は米国多発テロ事件が起き世界が震撼するなかでかき綴ったものから24点を選んで展示した。題して「絵日記ジャーナル2001」。ローカル版だが、静岡新聞と中日新聞にも記事として取り上げられた。終わりよければすべてよし。いろいろな人々に助けられ、入院という災難を個展というプラスに転化して2001年をなんとか締めくくることができた。

昨年の夏休み、急性肺炎のため約1ヶ月半入院した。こういう状況のとき、自分は一体何をするのだろう、したことが自分とは何者かを知らせてくれるのだろうと思って自分を眺めていたら、入院半月後から絵日記をつけはじめた。絵日記は小学校以来つけたことがない。3日坊主で終わらせないためにも、病院の中で日々観察したことを題材に、多少の熱があってもかき続けることにした。

退院日に、それまでかきためた絵日記を冊子にし「入院絵日記」というタイトルをつけて、お世

図書館だより

シリーズ・電子ジャーナル(2)

今回は、主要な電子ジャーナルプロダクトを紹介します。出版社系・アグリゲータ系に分けて表にまとめました。この他にも大学出版局、学術団体等の数多くのサイトがあります。日本の学術雑誌の電子化は、欧米に比べ、かなり遅れていると言わざるを得ませんが、国立情報学研究所や学術団体を中心にいくつかの取り組みが行われるようになってきました。

	プロダクト名	特 徴
出版社系	ScienceDirect	Elsevierとその関連出版社の約1100誌のフルテキストを搭載。出版社提供のサービスとしては最大。
	IDEAL	Academic Press社の約180誌の他、Saunders社、Churchill Livingstone 社の雑誌を収録。オープンコンソーシアム契約プランも提供。
	InterScience	Springerグループ各社の約500誌を提供。全文へのアクセスは冊子体購読者のみ。
	OUP Journals	Wiley社発行の約330誌を提供。
アグリゲータ系		Oxford University Press が提供する電子ジャーナルサービス。全タイトル(約130誌)についてトライアル中。(平成13年度)
	CatchWord	CatchWordは欧米の中堅出版社数十社が電子ジャーナルを提供するために設立した会社。約1100誌を収録。
	EBSCO	雑誌代理店EBSCOが各出版社の約7200誌を収録。
	Ingenta	Ingentaはイギリスの電子ジャーナルを提供する会社。各出版社の4500誌を収録。
	HighWire	Stanford大学が主催するE-Journalシステム。フリーサイトで全文閲覧が可能なタイトルもある。
	JSTOR	JSTORはバックナンバーの電子化や保存を目的として発足した非営利団体。4種のコレクションを画像で提供する。
	NACISIS-ELS (国内)	国立情報学研究所が提供するサービス。学協会の学術雑誌のページを画像データとして蓄積、検索できるようにしている。
J-STAGE (国内)	科学技術振興事業団(JST)が構築した科学技術情報発信・流通総合システム。国内の学協会誌を対象に、投稿からネットでの提供までをWeb上でサポートする。全文閲覧が可能なタイトルもある。	

国立大学図書館協議会では電子ジャーナルの契約を有利に行うため、タクスフォース(対策委員会)を立ち上げ、コンソーシアム(共同購入)による導入を進めています。本学では予算事情により、電子ジャーナルの購入契約は行っていませんが、多くの電子ジャーナルにアクセスできる利用環境を整えていくことが求められています。冊子体購読とセットで利用できるものなど、無料で提供されている電子ジャーナルについては、今後も積極的にご紹介していきます。

スキー教室の感動

薬学部 身体運動科学 大石 哲夫

2002年1月、授業の一環としてスキー教室が長野県の白馬乗鞍スキー場で開かれました。

新年早々にもかかわらず20名を超えるOB・先生方の参加を得、現役学生14名との有意義な交流の場がもたれました。

技術的にも、OB(スキーを生涯スポーツに取り入れている者)の懇切丁寧な指導で各人が見事なシュプールを描くようになり、スキーの楽しさは充分理解することができたと思います。同時にスポーツを通して、互いの壁を取り払った心が触れ合う心地よさも実感できたのではないのでしょうか。

当初遠慮しがちであった学生も、一つ屋根の下で共同生活をするうちに先輩諸氏とフランクで自然な会話を交わすようになり、懇親会では大いに語り合う光景が随所で見られました。経験に富んだ多くの貴重な示唆を得たことと確信しています。

さらにこの会を一層盛り上げてくれたのは大胡田君の存在でした。

ご存知の方も多いかと思いますが、目が不自由でありながら彼の積極的なキャンパス活動は我々を様々な意味で励ましてくれています。

今回のスキー教室でも彼のパフォーマンスは彼自身の意識とは別に、静かにしかし、大きなうね



りとなって参加者の魂をふるわせてくれました。

2回目の参加となった今回は、一般学生と共に滑り、一緒にスキー場の風を楽しみました。

みぎ~! ひだりー! と、前を滑る者の声に合わせて見事にシュプールを描いていく姿はごく普通の滑走風景ですが、長野県代表経験のある宿のご主人をもって、私でもあの斜面を目隠して滑ることはできませんと言わせた滑りは、彼の状態を知る者に強烈なインパクトを与えずにおきません。補助として一緒に滑った指導員の言葉がそれを見事に言い当てています。

感動なんてものじゃありませんよ、私は勇気をもらいました

頬を横切る風とエッジが切る雪圧を見事に感じ、巧みに滑り降りる姿にオーラを感じたのはどうやら私だけではなかったようです。

自分の可能性を決めつけているのはあなた自身ですよ

どこかであきらめていませんか
あなたの可能性は限りないですよ
一緒に滑る私に、いつも彼はそう語りかけているようでした。